山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第２０２号(通巻第２６９号)

2022 年 11月 30 日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL　055-220-8325、FAX　055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■ 山梨県総合教育センターとの第３回連携・教育研究会の報告（11 / 18）

１ 実 施 日　令和４年 11 月 18 日（金）13:30～16:30
２ 開催場所　山梨県総合教育センター
３ 全体会次第　13:30～15:10　総合教育センター第３研修室
（１）はじめのことば
（２）総合教育センターあいさつ　所長　篠原　健様
（３）山梨大学教育学部附属教育実践総合センターあいさつ　センター長　長谷川 千秋先生
（４）講演・講師紹介
（５）講演 (13:45～15:05) (80 分)
演題 「『生き抜く力』を自己効力感から考える」
講師 山梨大学教育学部 学校教育課程 幼小発達教育コース
准教授 小野田 亮介 先生 【教育心理学、 認知心理学】閉会行事
（６）質疑応答
（７）連絡事項
（８）おわりのことば

４ 分科会次第　15:20～16:30 (終了後解散)
会場
小学校: 第２研修室　中学校: 別日程 データ WG で実施
高等学校: 第１研修室　情報教育: 情報研修室
教育相談：美術第１研修室　特別支援: 第５研修室
（１）はじめのことば
（２）研究協議
（３）今後の研究日の日程確認
（４）その他
（５）おわりのことば

山梨大学教育実践総合センターと山梨県総合教育センターによる連携・教育研究会は、山梨大学と山梨県教育委員会の、教員養成及び教員研修に関わる連携の一部です。年間５回の研究会をとおして、情報を交換し合い、その成果を、山梨大学の学生に対しては山梨県総合教育センター教員が非常勤講師を務める「学校制度・経営論」の講義を通じて、また、県内の教員に対しては大学教員が山梨県総合教育センター研究大会やセンター主事研究、センター研究協力校における公開授業・授業研究会、研修会における指導助言等により支援しています。

今年度の第３回は、11 月 18 日（金）に山梨県総合教育センター第３研修室で開催され、両センターあわせて 54 名が参加しました。全体会では、両センター長のあいさつに続き、小野田亮介准教授による「『生き抜く力』を自己効力感から考える」と題した講演が開かれました。連携・教育研究会では、下の講演リストのように山梨大学教員による講演が毎年行われており、総合教育センター教職員が、主事研究に役立つ最新の研究成果にふれたり、教育実践研究をすすめるにあたって重要な教養を身につけたりする機会となっています。

小野田先生からは、自己効力感を高めることの重要性についてお話がありました。冒頭、先生の参画されている全国的な大規模パネル型調査結果のデータから保護者の抱く日本の将来への不安や、子どもたちの学習意欲の経年的低下などの課題が提示されました。そして、このような現状がある現代社会において、そこで生き抜く力とは何か、という問いが投げかけられました。それは「自己効力感」（高い目標を設定し、困難に直面しても前進し続ける力）であるとして、その内実を教育心理学の知見をもとに分かりやすく解説していただきました。自己効力感を高めるアプローチとして、成功体験の観点からは、自分に合った計画の調整を促すことが、失敗経験の観点からは、「しなやかマインドセット」を保つことが、その必要性として挙げられました。その中で特に、これまで子どもたちに対して行ってきた対応（褒め方、フォロー、言葉がけ等）が、その仕方によって望ましくない「硬直マインドセット」になってしまうことの指摘があり、改めて保護者や教員の発する言葉の重みを感じたところです。まとめに、「生き抜く力」とは「『越えられない困難』という閉塞性を前提とした力」であり、私たち大人ができることとして、自己効力感を下げないための声がけや評価をすること、それを高めるための工夫として課題の分割や計画を行えるようにしていくこと等をご示唆いただき、教育に携わる大人としての責任を改めて感得することができました。

全体会の後は、５つの分科会（小学校・中学校・情報教育・教育相談・特別支援）に分かれ、今後の主事研究や研究協力校との実践研究に関する研究協議が行われました（中学校は別日程データ WG で実施）。

－ これまでの連携・教育研究会で開催された大学教員による講演 －

R３.11…長谷川千秋教授「昔のことばと今のことばーことばから文化を促える」
R２.11…川本静香准教授「コロナ禍における自殺予防」
R１.11…森元拓准教授「学校生活における法的責任の理論と判例」
H30.11…田中勝教授「子どもが主役 町並み保存～歴史的集落・町並みにおける地域協働のふるさと学習と担い手育成～」
H29.11…宮澤正明教授「文字文化の継承・発展に寄与する教師の役割とは何か～新学習指導要領の趣旨を踏まえた文字・書写指導の意義と目的から～」
H28.11…松森靖夫教授「子どもの“なぜ”から始める理科授業づくり～理科好きな子どもをはぐくむために～」
H27.11…服部一秀教授「社会科教育をめぐる諸問題」
H26.12…鳥海順子教授「特別支援教育の展望」
H25.11…時友裕紀子教授「食物アレルギーの基礎知識」
H24.11…谷口明子教授「校内研究に活かす質的研究法～よりよい授業実践のために～」
H23.12…加藤繁美教授「子どもの自分づくりと保育・教育の課題～課題としての幼小接続問題～」
H22.12…成田雅博准教授「テキストマイニングの教育実践研究への活用」

H21.12…石川啓二教授「近隣諸国との競争にさらされる日本の若者―比較教育的視点から見た今次学習指導要領の背景―」
H20.12…谷口明子教授「教育研究における質的研究法の可能性～実践現場からのボトムアップ式理論構築のために～」
H20.01…中村享史教授「新学習指導要領の方向性」～ＰＩＳＡ型「数学応用力」の調査結果
と関連させて～
H19.09…岩永正史教授「ＰＩＳＡ型読解力を育てるために」
H19.01…中村享史教授「算数・数学科における思考力・表現力～大規模調査の問題から～」
H18.09…岩永正史教授「説明的表現力を高める～私たちがもっている（知識＝schema）に着目して～」
H18.02…永井達彦客員教授「小・中学生と向き合う教師と学校」
H18.01…高橋英児助教授「国際学力調査から見える授業づくりの課題」
H17.09…榊原禎宏助教授「教職員の職能開発と『楽しい』研修」
H17.09…中村享史教授「米国の算数授業研究の現状」
（山梨大学 教育学部 附属教育実践総合センター - プロジェクト・研修・講座等
https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2301/ より）

■ 第４１回教育フォーラムのご案内（1 / 24）

山梨大学教育学部は、山梨県教育委員会との共催で以下のように教育フォーラムを開催します。教育について関心をおもちの方のご参加をお待ちしております。

「思考力・判断力・表現力を考える～論理的思考・批判的思考・コミュニケーションに焦点を当てて～
グローバル化や情報化に代表されるように、社会は加速度的に変化しています。この、複雑で予測困難な社会で求められる資質・能力として、学習指導要領では、思考力・判断力・表 現力が掲げられていますが、これを育むためには、他者と対話し、根拠を持って主張を組み立て、結論を導く活動が有効だと考えられます。 今回は、その活動の手法として、トゥールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授 業実践を先導している前田秀樹氏を講師に迎え「論理的思考・批判的思考・コミュニケー ション」を育むための考え方や実践方法について講演いただきます。その後、授業での実践について、実践事例などをもとに議論します。総合の時間・探求の時間についても触れますので、ぜひご参加ください。

日　時　：2023 年 1 月 24 日 18:00-20:00
対面会場： 山梨大学甲府キャンパス J 号館 5 階 A 会議室

講　師　　：前田 秀樹（学校法人大阪医科薬科大学高槻中学校・高等学校 教頭）
パネリスト ： 小松 琢朗（山梨大学教育学部附属中学校 教諭）
コーディネータ： 古屋 啓一（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター ）

【入 場】無料 【対象者】教員 学部学生 大学院生 大学等の研究者 県内外の教育関係者 一般の皆さま
【主 催】山梨大学教育学部【共 催】山梨県教育委員会【後 援】甲府市教育委員会
【お問い合わせ】山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）
TEL：055-220-8325 FAX：055-220-8790 E-mail：jissen@ml.yamanashi.ac.jp

対面と Zoom によるハイフレックス方式
参加希望の方は、右の QR コードのリンク先より 1 月 16 日（月）までにお申し込みください。

山梨大学教育学部　第41回教育フォーラム

思考力・判断力・表現力を考える

～論理的思考・批判的思考・コミュニケーションに焦点を当てて～

日 時

2023年
1月24日 火 18:00-20:00

対面会場　山梨大学甲府キャンパス　J号館5階　A会議室

対面とZoomによるハイフレックス方式

新型コロナウイルスの感染状況により、オンラインのみの開催となる場合があります

テーマ

グローバル化や情報化に代表されるように、社会は加速度的に変化しています。この、複雑で予測困難な社会で求められる資質・能力として、学習指導要領では、思考力・判断力・表現力が掲げられていますが、これを育むためには、他者と対話し、根拠を持って主張を組み立て、結論を導く活動が有効だと考えられます。

今回は、その活動の手法として、トゥールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授業実践を先導している前田秀樹氏を講師に迎え「論理的思考・批判的思考・コミュニケーション」を育むための考え方や実践方法について講演いただきます。その後、授業での実践について、実践事例などをもとに議論します。総合の時間・探求の時間についても触れますので、ぜひご参加ください。

講師他

□講師
前田　秀樹（学校法人大阪医科薬科大学高槻中学校・高等学校　教頭）
□パネリスト
小松　琢朗（山梨大学教育学部附属中学校　教諭）
□コーディネータ
古屋　啓一（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター　教授）

□参加希望の方は、右のQRコードのリンク先より1月16日（月）までにお申し込みください。前日までにZoomミーティング参加のためのURL等をお送りいたします。

【入　場】無料
【対象者】教員　学部学生　大学院生　大学等の研究者　県内外の教育関係者　一般の皆さま
【主　催】山梨大学教育学部【共　催】山梨県教育委員会【後　援】甲府市教育委員会
【お問い合わせ】山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）
TEL：055-220-8325　FAX：055-220-8790　E-mail：jissen@ml.yamanashi.ac.jp